

# 幼児教育上に於ける繪畫の領域

目白幼稚園  
保姆養成所

和田 實

一口に子供の繪云つても、之には三つの意味を持つて居る。一つは子供を畫材としたもので、繪畫としては普通の繪と同じ意味のもの、一つは子供に見せることを目的として畫かれたもので、其畫材は多方面に亘つて、子供の興味の對象となるものを描いたもの、今一つは、子供自身に描いたもので、子供の發表としての繪である。即ち子供の繪云ふものは

一、子供を畫材とした普通の繪

二、子供に見せる爲めの繪

三、子供自身の發表畫

の三種類なるものである。それで、繪畫が幼児教育上に何んな役目を持つかを調べ様にするには、自然此三種の繪畫が幼児教育上に何んな働きをして居るか云ふことを研究することになる。

幼児教育上に於て、繪畫が最初に役立つのは、幼兒二三歳の頃に於ける直觀材料としての役目である。此時代に於ける幼兒の遊戯は、主として、事物を直觀することに興味を持ち、空虚な精神界に、事物の在ゆる印象を蓄積することを目的とした働きが、其生活の大部分を占める。此働きに因つて、子供は精神活動の材料たる數多の觀念を蓄積することが出來、思想界を形成する細胞を收穫することが出來るのである。従つて、此時代に要する所の子供の爲めの繪畫としては、子供

の直觀的興味の對象たるものでなければならぬ。即ち、前記三種の子供繪の中の第二種に屬するもので、且つ主として子供の直觀的興味を満喫させることの出来る種類のものを主として要求される。従つて、子供に見せる爲めの繪としての最初の條件は

第一に直觀材料として興味あるもの即ち子供の生活材料たるもの

第二に直觀材料として役立つもの即ち忠實に寫生したるもの

と云ふ二つの性質を具備して居ることが必要な條件となると共に

第三の條件として其繪畫の表現法即ち書表はし方が陰影の強い單純なもの程、子供には判り易い。時には背景なき、全然ない位の單純なものが喜ばれる。此三つの條件を具備したものが、幼児教育上最初に役立つところの子供繪である。而して此様な要求に適ふところの繪は、主として子供の爲めに描かれることに因つて、其要求を満たされて居る。市中に於て到る處の書店に賣られて居る、小は二三錢から五錢十錢位の謂ゆる赤本と云ふものから四五十錢の子供用の繪本が皆此要求に對して、供給されて居る。併し、前記の第一種に屬する普通の繪の中及其他一般の普通の繪畫の中にも、子供の直觀材料となるものは随分ある筈である。唯、其分量は甚だ少ないであらうから、一般の繪畫中から、子供の爲めに選り出す以外何うして、子供のために作つて遣る必要が起つて來る。殊に、幼児教育の時代に適當な繪、即ち幼児の幼稚な直觀力に適した繪と云ふものは、一般の普通畫の中には殆んど無い。故に、子供の爲めの繪と云ふものは何うしても特殊の目的の下に、作爲される必要がある。

子供が段々發達して、複雑した繪畫の内容を理解する様になれば一般の繪畫が、子供にも理解される様になるから、特に子供のために作爲されなくても、一般の繪畫中から、必要に應じたものを、直觀材料として選ぶことが出来る。幼児が

六七歳になるに、可なり繪に對して理解を持つ様になる。そして、初めは單に、物を理解し、次に物の運動を理解して居るに過ぎない直觀力は、此時代になるに、繪畫に表はれる感情や意味をも理解することが出来る様になつて、繪畫を見る興味は一層高尚になる。殊に、鑑賞的に繪を見ることの出来る様になることは、直觀作用の大なる發達を云はねばならぬ。然も、其鑑賞力は始めは、事物の形式美を認識するに過ぎないが、次第に夫れは精神美を認識することに向つて發達して来る。斯うなるに、子供に見せる繪だから云つて、決して、馬鹿に出来ない。夫れこそ、古來名畫の中から適當のものを、子供の爲めに選擇して、直觀材料としなければならぬことになる。斯くして、子供の鑑賞力は適當の指導者によつて、何處迄も發達して行くことが出来ることになる。要するに、繪畫は、先づ外界の事物を理解する爲めの直觀材料として、子供に與へらる可きものとなり、之が次第に高尚な社會や自然を理解するに役立つ、更に進んで、文化の理想を理解し鑑賞するに適當の様に役立つものである。

斯様に繪畫を云ふものは、子供に、心の糧を供給するに云ふ役目を最初に持つて居るものであるが、次には、子供の發表機關として更に大きな役目を持つものである。併し、此發表機關としての繪は、前記の直觀材料としての繪は最初は何等の關係をも持つて居ない。直觀の上に於ける子供の繪の認識は隨分、早くから發達するもので、材料が適當ならば一年位から、悅んで見るものであるが、發表としての繪は、容易に發達しない。また、其發達も、認識的發達は割合に、速かに、幾多の段階を進んで行つて、幼児教育の終り頃には、可なり高尚な理解も鑑賞も出来る様になるものであるが、發表としては、技工の發達が容易でない爲めに、其發達は極めて、遅々として居る。

此二つの方面の發達の差異は隨分、大きな隔りのあるもので、認識方面では、繪の美醜から技工の巧拙迄も、相當に批判出来る眼はありながら、手の技工は、極めて、幼稚で話にならぬに云ふのが、今日普通の子供、殊に、都會地に於ける

幼児の状態である。時には之が爲めに、子供は自分の發表畫の拙劣なものを自覺して、却つて描畫を嫌ふ云ふ様な、不幸な破目に陥るゝことがある。是は幼児教育上、由々しき不幸事である。故に、幼児教育の上からは、此兩者の發達を、成る可く無關係にして、子供は繪の認識や鑑賞は、別個に、自分の描畫を樂しむ様に仕向けなければならぬ。併し、此兩者の關係は、全然、無關係に終るゝことは、決して出来ない。何となれば子供の外界を認識する結果が發表されるのであるから、發表し來るゝところの内容は、悉く認識無關係して居るからである。従つて、子供の發表には、拙劣な技工を以て、比較的高尚な認識内容を盛つたものが、澤山ある譯である。然して、是が多く専門畫家をして驚嘆せしめるゝところのある所以である。子供禮讚家は之を以て、子供の神性に基くものゝして讚美して居る。子供は無邪氣である。純真である。神性に満ちて居る。此偽りなき純真な眼で、物を見るから、事物の真相を單適に、觀取するゝことが出來、大人の苦心して探し求むるものを、苦もなく認識して、發表するのである云ふ。全く然うも云へるでせう。併し、心理的に子供の心を解剖すれば、前述する通り、幼児教育上に於ける直觀的誘導方法の好結果に基くもので、別段神秘的なものではないのであります。兎に角、斯う云ふ様な關係にあるものでありますから、繪畫上に於ける幼児教育第二段の任務としては、幼児の描畫力を適當に誘導して、幼児の思想感情を、自由に、大膽に卒直に發表するゝことの出來るゝところの技巧を、成る可く速に得させるゝ云ふゝことが必要になります。但、扱て之が大變な困難な問題で、吾々幼児教育者の大に苦心する所のものであります。從來、保育上に於ける畫き方云ふものは唯其技工を收得させるだけのものであるやうに考へられて居りましたが、決して、そんな單純なものではありません。畫き方も、他の凡ての保育事項と共に、深い根柢のある人間の發表機關で、非常に大切な保育事項であります。尤も、是れは畫き方を、偉れた認識の發表機關として考へる時の意味で云ふので、若し、其認識が平凡で、卑俗で、然したる文化的價值のないものであつたら、其發表機關としては自然、大した値打

ちは無いことになりませんが、吾々は専門畫家が、子供の發表畫の偉大な價値に驚嘆する様な場合を、主として考へて、其根柢たる繪畫の直觀的誘導を大切に考へることに、其發表としての畫き方を大切にしたいと思ふのであります。

所で、何うすれば子供の描畫能力、即ち技工を發達させることが出来るか、是に就いて、從來の保育法が教ゆるところの方法は現在、最も多く行はれて居るものは、

### 一、自由畫の獎勵

二、塗り繪、透き寫し、輪廓等の技工習作であります。

右の二つの方法は無論よい方法であります。併し、是だけで、充分でせうか、此外に、何か方法はありますまいか、嘗て、檜崎博士と上坂畫伯は其共著「子供の繪の見方と導き方」に於て「畫心」の養成の必要なことを提唱されましたが至極結構なことと思ひましたが、併し、其畫心の養成法に就ては、詳しい指導がありませんでした。

所謂「畫心」を云ふものは二つの方面に分けて考へなければなりません。一つは繪の認識方面であり、一つは畫かんとする興味であります。共に現在の圖畫教育上の缺陷であります。繪の認識方面は直觀や觀察の指導方面の任務であります。繪を直觀材料として使用するに共に、一般直觀の指導に因つて此目的を達することが出来ますが、畫かんとする興味を誘導することは如何なる方法に因る可きでせうか、是が從來の二つの方法に缺けて居る所であります。そして、是が保育の一つの目的であることを從來の保育者は氣が付かないのです。實に保育事項としての畫き方は技工其ものゝ進歩發達を計るに、幼兒をして描かんとすることの興味を發揚せしむることが、最後の目的でなければならぬのであります。此興味は、單に、自由畫を獎勵したり塗り繪を行らせるだけで、發達するものではありません。此興味を誘導する唯一の方法は何か。夫れは描畫其ものゝ觀察であります。畫を描くところを觀察させることでもあります。是が私の主張するところの動物觀察

の一つの特徴であります。子供は人の描くところを見ることに因つて、描かんところの興味をそゝられるのであります。他人が巧みに書きつゝあるのを見るに、自分も仕度いい氣持になるのであります。畫きたい氣持になればなる程、眼を皿の様にして、描く人の描畫振を見て居ます。そして、其描畫の仕方を見て居ます。其中に描畫興味が發揚するに、模倣興味も手傳つて、畫をかく眞似を始めます、そして、眞似して描く様になります。斯ることを度々經驗すればする程、益々畫を描くことの興味は増大します。そして、益々描畫の經驗を増すと共に、其模倣力も發達し、技工も發達して、愈々益々其興味を増大する様になつて來ます。勿論、此の間にも絶えず、先生や先輩やの巧みな描畫振を見させねばなりません。要するに、畫に巧みな人の描畫振を見せ付けられることは、描畫興味發達の唯一の門戸であります。故に、子供の要求に應じて子供の見て居る所で畫を描いて見せるに云ふことが、子供の畫かんとする興味を描畫方法の模倣力を誘導する唯一の方法であります。斯様にして、子供の描畫興味を導きつゝ、自由畫、指導畫の習作を獎勵するならば幼児の發表畫の發達は相當の域に達するものと思ふのであります。尙其細かい順序方法に就いては、私にもまだ研究がありませんので、確かな詳しいことは茲に述べられませんが是はまたの機械迄御猶豫を願ふことにして置ませう。

兎に角、以上述べた通りで、幼児教育上に於ける繪畫を云ふものは一つは直觀材料として子供の心の糧を供給する方面に役立つ、一つは發表機關として大に習練を積ませねばならぬ方面の二つの領域を持つて居るものであります。